○クモヘリカメムシ

【生態と特徴】

本県では成虫は越冬世代と第１世代の年２回発生する。ヒノキ等の針葉樹上で成虫越冬していると考えられる。

６月下旬頃に越冬世代成虫がイネ科牧草地や雑草地に飛来し、吸汁する。イネの出穂が近くなると水田内で確認されることがあり、ヒエなどが出穂していると発生が集中することがある。イネの出穂後は穂を加害、水田内で産卵し、第１世代成虫は８月中旬頃から出現し始める。

成虫は体長 16㎜ 程度で、体型は細長い。体色は全体が黄緑色で、膜質部が褐色を帯びる（写真）。

主に玄米の頂部、鉤合部を加害し、発生が多いとしいなや不稔による青立ちによって収量に影響することもある。

発生域は主に中通り南部及び浜通りであるが、2020（令和２）年の病害虫防除所によるすくい取り調査では、それまで発生が確認されていた旧 22 市町村に加え、中通り北部、中部を中心とした 18 旧市町村で新たに発生が確認されるなど、近年の温暖化によって発生範囲が拡大傾向にある（図）。

【防除対策】

防除は、水田周辺及び水田内のイネ科雑草の管理と出穂期～穂揃期の薬剤防除が主体となる。なお、水面施用剤は大型カメムシ類には効果が劣る場合があるため、散布剤による防除を行う。詳細は「斑点米カメムシ類の防除対策について」を参照すること。

写真　クモヘリカメムシ成虫

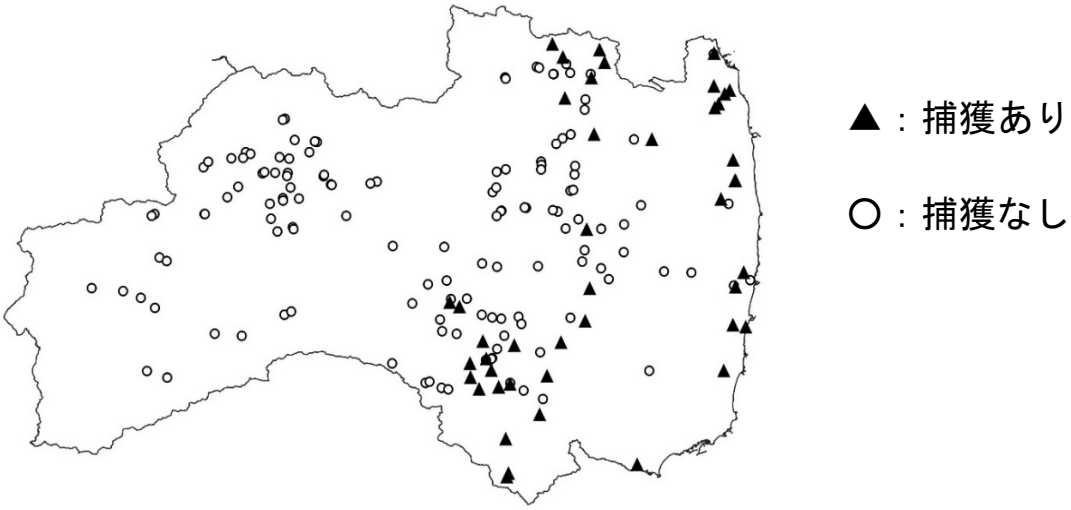

図　すくい取り調査によるクモヘリカメムシ発生確認地点（2020（令和２）年調査）